

# ひまわり通信 平成25年度

同窓会員の皆様こんにちは

14年間勤務させていただきましたが、3月31日をもちまして退職をすることになりました。14年間の間には、学校の方も2年課程から3年課程へと課程変更をするという大きな変化があり、それに伴い高校卒業後の若い学生が増えていきました。その学生とどう関わったらいいのか戸惑いもありましたが、早いもので3年課程に変更してから、もう9回目の卒業生を送り出しました。

在職中に落ち込むこともありましたが、いつも元気で笑顔でいられたのは皆さんから、若いエネルギーを貰っていたからだと思います。退職後は家庭に入り主婦になる予定ですが、いつまで家にとどまっていられるかは自分でも予想が付きません。これからの人生についてはゆっくり考え行動したいと思います。皆様には、大変お世話になりました。これからも健康に留意され、ご活躍されますよう祈っております。

泉川ふじ子

同窓会の皆様

私は平成3年6月1日付で本校に入職しました。平成元年開校時の入学生が3年生になり、初めて3学年がそろった年でした。あれから22年、学校は2年課程昼間定時制（修業年限3年）から3年課程に変更となり現在に至っています。思い返せばこの22年間とてもhappy！！でした。この学校の一つの礎になれたのではないかと思えるほど頑張ったようにも思います。若い皆さんとの交流はとても楽しいものでしたし、職場としても素晴らしい仲間にも恵まれてきたと思います。そんな環境下で22年間過ごし、めでたく定年を迎えられたのは最高の人生だったと思います。これからの第二の人生も、最期に振り返る時「我が人生に悔いは無し！」と思いたいものです。ありがとうございました。

事務室 川瀬和恵



# <ひまわり会 総会 会長挨拶>

皆様、1年ぶりですがいかがお過ごしでしょうか？先日、地域の医師会の先生方による地域連携の研修会に参加しました。今後300万人の認知症患者さんが予想される中、認知症疾患医療センターと地域のかかりつけ医との連携を深める研修でありました。認知症に限らず、全ての疾患が地域の医療機関に委ねられ専門的治療が求められる現在、症状によりかかりつけ医から専門の医療機関への紹介（連携）がスムーズに行われ、治療の迅速化・機関の短縮化が図れるものと思っております。

今年は本校も創立25年を迎え、創立当初から学生の教育にあたられた石田副校長先生、荻田先生が平成26年3月に退職されます。多くの学生の指導にあたり、たくさんの看護師を世に送り出されました。先生方のご教授には敬意を表します。私たちが先生方には看護師というライセンスを持つに至り、感謝の気持ちで一杯です。

この気持ちをお伝えするため、平成26年8月には向日葵会総会を大々的に開催し、1回生から23回生までの皆さんに出席して頂き、先生方をお招きしてお世話になった当時の話に花を咲かせたいと思います。

来年8月の総会には皆様、是非是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。

第10回生 佐藤英司

## <第102回看護師国家試験>

平成25年2月17日第102回看護師国家試験が行われた発表が3月25日にありました。当校の合格率は100%、全国の合格率(新卒)は94.1%でした。

3年間の努力、先生方の教え、周囲の皆様の支えにより、看護師としての第1歩が踏み出せました。受験した皆さんお疲れ様でした。

# <平成24年度 会計報告>

年月	内容	入金	出金	残金
	前年度繰越金			1,117,318
平成24年2月	21回生会費入金	205,000		
2月	入学・卒業式花代		20,000	
3月	往復葉書		66,780	
10月	受取利子	287		
平成25年2月	入学・卒業式花代		20,000	
2月	シール、紙代		8,000	
2月	22回生会費入金	180,000		
2月	卒業式電報		580	
	入出金合計	385,287	115,360	
	残金(再掲)			1,387,245

会計監査の結果、適正妥当であることを認める

平成25年3月2日

会計監査 第10回生 林 愛 印

# <25年度 予算案>

内 容	出 費
入学・卒業式花代	20,000
文具代	26,000
通信費	100,000
役員会会議費	50,000
予算案合計	196,000

# 石田副校長のお話し

同窓会の皆さんへ

副校長 石田 文代

今年は、冬の防れの速さに驚いているあいだに、もうクリスマス、そして年の瀬も近づいてきました。皆さんお元気にご活躍のことと思います。

学校は今、22回生の国試が近づき、23回生は実習が本格的に始まりました。さらに来年の入学生（25回生）を迎えるための入学試験と、相変わらずあわただしい日々です。

卒業生には、様々な場面で多様なご支援を頂いて、本当に感謝しております。卒業生の職場での評価も高く、皆さんの看護の現場への質の高い貢献が、私達教職員の励みとなり、また在学生の目標ともなっています。どうぞ皆さん1人1人が、当校の卒業生として期待される職責を存分に果たし、またをそこに繋がる人達へ思いをさせて頂ければと願っています。

現在、看護の現場で働いている皆さんは、急激な高齢社会の到来を身を持って感じていることと思います。また多くの方達は家族の介護の問題に直面していることでしょう。広く世界に目を向けても、ほとんどの国が経験したことの無い高齢社会に、日本は早々と突入し、高齢者人口が最多となる2025年に向かって歩を進めています。

一方、戦争や飢饉にみまわれる貧困問題を抱えたアフリカの地域では、平均寿命が50歳に届かない国や、乳幼児死亡率が103（出生千対）にも上る国もあるのです。

東日本大震災の復興・原発事故の後処理もままならないなか、昨日の総選挙では政権が交代するという劇的な変化が起こりました。

このような社会の変化を背景に医療福祉の現場も大きく変わろうとしています。国の政策である医療福祉の場を在宅に転換させる方向は、臨床現場で働く看護職に多くのジレンマをもたらしています。介護力のない家族のもとに帰らなければならない方、入院期間の短縮により今後不安を抱えて退院される方、また延命治療への意思決定を迫られる方等、

現実に目をやれば、きりなくあがる患者様やご家族の不安や悩みに、日々向き合う看護師もまた出口のない不安全感の中で仕事をしているのが現実です。

しかしながら、この頃改めて思うことは、やはり看護の仕事は素晴らしいということです。私も看護の教育にかかわって大変長い時間が過ぎましたが、経済効率を優先する社会の中に、「人を助ける」、「ケアする」という、きわめて人間らしい仕事に身を置くことを幸せなことだと感じています。

皆さんが、看護の目標である『その人らしく生きることを助ける』働きを、厳しい現実の中にあっても追い求めてゆけるよう、看護師としての出発地である母校からお祈りしています。

2012年12月

冬の日ざしが明るい教員室にて